



古民家再生 住宅展示場



右、古い家にあった通り土間を活かしたエントランスはホームカフェながら / 左、太い梁や柱の和の趣と、テラコッタ色のタイルの洋の混入が融合した道りのある空間



左、見た目だけでなく、広い空間をしっかりと温める機能も備えた薪ストーブ / 右、陰影に富む西洋漆喰の壁

### 西洋漆喰と無垢の木で リノベーション 築150年の古民家スタジオ

右、土間続きのダイニング空間。キッチンにはオリジナル造作 / 左、上がり棚に懸掛けて、テーブルに座って、気軽なコミュニケーションを楽しめる玄関土間を提案



匠の設計と熟練の技で「古い世代から受け継いできたものを大事にしたい」という施主の思いをカタチにしている。

匠の設計と熟練の技で「古い世代から受け継いできたものを大事にしたい」という施主の思いをカタチにしている。

その部分の構造が弱くなってしまう、別の手を加える必要が生まれ、費用がかかってしまうことにも。もちろん、古くなっている箇所は補強しますが、なるべく予算をかけないためにも、元の構造を崩さず、いかにいい間取りを提案するかが建築士の腕のみせどころです。



【風のくら】では「土間」という民家の伝統を、現代の暮らしに取り入れた住まいを提案。和と洋を融合させた現代古民家ライフイメージできる

## 築100年超の古民家を再生させる 建築設計の極意に迫る

2つの古民家再生モデル住宅を舞台に、古い家屋を現代的な暮らしに合う空間へとリノベーションさせる技術の極意に迫ってみました。

### 匠の設計と熟練の技で 図面のない古民家を再生

築100年を超えていて間取りが存在しない、代替わりするたびに増改築を繰り返して、構造に不安がある。そんな古民家のリノベーションを得意としているのが「ハウスランド社」だ。古民家の構造的な特徴を熟知しており、設計士泣かせで、施工難易度の高い物件を、これまでいくつも再生している。

実際、どのように古民家リノベーションを行っているのか。設



戦前の日本が豊かな時代に建てられた建物。主なき後、竹林の中に隠れるように建っていた藁葺屋根の古民家をハウスランド社代表の三上さんが購入。無垢の木や西洋漆喰といった自然素材を用いて家を建て、自然と調和しながら暮らしをアップデートするためのモデル住宅として再生させた



計担当で「級建築士の糸山葵さんに話を聞いてみた。『最初に行うのは間取りの復元です。現況調査であらゆる箇所の幅や高さを測って、構造的に重要な柱や梁を写真に取り、作業を開始。元の間取りや構造を活かしつつ、快適な暮らしを提案できるかを考えています。最近では、スケルトンリノベーションをされる工務店さんも多いですが、大まかな柱の位置などは変えないようにして、元の建物の面影を残して再生させるのが私たちのこだわりです。そもそも、柱を一本抜